同郷というきずなを強めて二十年

東京白根会創立二十周年記念総会

大広間を埋めつくしてひらかれた総会。年に一度の再会を楽しみにしている人たちだ

吹雪の新潟とは、うって変わって快晴の東京は、一足早い春の様相を見せてくれる。ミニスカートのギャルたちは、セーターを腕にして闊歩する。雪国に住む妬ましささえ、感じさせる。

そんな若者たちでにぎわう渋谷駅前。ハチ公像から程近い渋谷万葉会館で、『東京白根会創立二十周年記念総会』が、二月二十七日の午後一時から百八十人を集めて行われた。

高木一郎会長のあいさつに始まり、吉沢市長、川田市議会議長、保倉凧合戦協会長らが次々と祝辞を述べ、創立二十周年を祝った。昨年九月に亡くなり、名誉市民で同会名誉会長であった加藤清二郎氏に代わって、長男健一郎氏が特別会員として初参加。「亡き父の意を継ぎ、郷土のためにつくしたい」と述べ、参加者の拍手を浴びていた。

このあと、アトラクションに入り、星野白謡、鏡五郎歌謡ショーが、雰囲気を盛り上げる。懇親会に移り、なごやかに歓談しながら酒をくみかわす。二十周年ということで、特に出席者も多く、大広間に入りきれず、第二会場を設けるほどの大盛況。年配者に混じって、若い人も多い。ふるさとを懐かしむ会話が、あちこちで聞かれた。

今年の六月には同会で、凧合戦観戦ツアーを組み、大挙して帰郷する企画があるそうである。

あいさつに聞きいる会員のみなさん

乾杯！

市民を代表して、市長がメッセージを

熱唱する星野白謡さんは会員でもある

ひさしぶりに会ったふるさとの友達と話をはずむ